



## 校長から宗高・宗中のみなさんへⅡ ⑩

令和2年8月21日（金）

### 「やさしさと厳しさと」

今日から2学期のスタート、第2学期始業式でした。

今朝、みなさんの顔を見て、元気な声を聞くといよいよ2学期がスタートするのだと実感しました。やはり、学校というのは、みなさんたちという存在があって初めて、血の通った「生きた」存在になるんだなあと改めて思ったものです。

例年の約3分の1という、たった2週間の短い夏休みではありましたが、心身ともに少しはリフレッシュできたでしょうか？ 様々な計画等も順調に進んだでしょうか？

8月5日の1学期終業式でお話した（1）新型コロナウイルス感染防止の徹底（2）水の事故防止の徹底について、全国で多くの感染者や重症者が出ている中、新型コロナウイルス感染の陽性者もなく、水の事故をはじめとした事故等もなく、今日こうして元気なみなさんと再会できたことを心から喜んでいます。これも、みなさんたちひとり一人が、「自分の」こととしてしっかり考え、高い意識を持って行動してくれたからに他なりません。

1年間の学校生活を通して見た時、1学期は年度初めということで何かと慌ただしく、3学期は期間が短い上に学力検査や卒業式という大きな行事もあって、あっという間に終わってしまいます。そう考えると、1年間の学校生活の中でこの2学期だけが、色々なことにじっくり腰を据えて取り組める大事な4ヶ月であることに気づかされます。そういう意味では、この2学期4ヶ月をどうすごしたかによって、来年4月からのみなさんたちの新たなステージのあり方が決まると言っても、決して言い過ぎにはなりません。

だからこそ、周囲に惑わされることなく自分自身の状況を冷静に分析・把握し、受験勉強はもとより、全ての物事に落ち着いて、じっくり取り組むことが、この2学期に一番求められることです。2学期のキーワードは、「じっくり、しっかり、こつこつと」です。目標とする最後の一点を見つめ、プロセスに一喜一憂することなく、しっかり前だけを見て進んでほしいと思います。

特に受験に向かう高3生は、いたずらに不安感ばかりを募らせ、焦り、浮足立つことが一番危険です。不安や焦りは、「やり続ける」ことによってしか解消できません。熱い情熱と県立高校有数の高い指導力をお持ちの本校の先生方を信じ、学校を信じ、先生方と共に頑張り抜いてもらいたいと思います。宗高のみなさんたちなら、最後の最後まで頑張り抜いた時、必ず結果はついてきます！先生方と共に熱い涙を流そうじゃないですか！「受験は青春」なのですから。

プロ野球は、今年は年間120試合に短縮されましたが、それもぼちぼち折り返しの時期を迎えています。ソフトバンク・ホークスは8月11日の対オリックス・バファローズ戦で、リードしていたにも関わらず、まだ若くて経験も浅い川瀬内野手が2つのエラーをしたことで、そこから

「エース」と言われる千賀投手が大きく崩れ、6点取られて逆転されてしまいました。その直後のインニングでホークスの柳田選手が難しい球をすごい技術でホームランにしてホークスは再逆転勝利を収めました。

試合後の柳田選手のヒーローインタビューで、2つのエラーをした川瀬内野手には「おまえが悪いやない。悪いのは千賀」と話したこと、「エース」千賀投手には「2つのエラーをした川瀬選手の気持ちがわからんやろうな。エースならあんな状況でこそ踏ん張らないかん。これはチームのみんなが思っているはず。」と話したことを明かしていました。その真意は、若い川瀬選手には、このエラーを引きずらずに翌日からも気持ちよく野球をしてもらいたかったからと述べています。

また、千賀投手には『「エース」だからこそ、若い川瀬選手のことを考えて、あそこは絶対踏ん張らないかんやった。』と敢えて厳しい言葉を投げかけたと言います。

柳田選手ほどのスタープレイヤーが、経験浅い若い後輩の立場に立ち、後輩の気持ちを<sup>おもんばか</sup>慮った言葉かけをし、自分自身のバッティングで後輩のいたたまれない気持ちを払拭するという言動に彼の本物の「やさしさ」を感じました。同時にエースとして不甲斐なかった同期の千賀投手に対しては、チームを代表して敢えて厳しいことを言える強さ。それは、千賀投手との信頼関係があるからこそその「厳しさ」だったのだと思います。

後輩に対しては、相手の立場に立って考え、それを実行できる「やさしさ」と、同世代に対しては信頼関係の上に立って、自分の置かれた立場を踏まえ、チームメイトを代表して敢えて苦言を呈する「厳しさ」を持つ。こんな存在があるからこそ、ソフトバンク・ホークスは「チーム」として強さを

発揮しているのだと思います。

宗高・宗中という「チーム」も、ひとり一人が、お互いに相手の立場に立って考え、相手が気持ちよくなる言葉や元気が出る言葉かけができ、また、おかしなことや間違ったことに対しては、厳しくそれを正すことができる人たちが集う学園でありたいと思います。そのためには、日常の「対話」こそが必要です。この「対話」によって、お互いを理解し、相手の立場に立つことができるようになるはずです。そして、そこで培った「信頼関係」があるからこそ、必要な時には厳しいことも言えるのではないのでしょうか。

本物の「やさしさ」と信頼関係に根ざした「厳しさ」を持つみなさんによって、宗高・宗中は、真に強い「チーム」になるのです。

校長 深瀬 信也